

文部科学大臣杯争奪
第20回 日整全国少年柔道大会

後援 文部科学省・厚生労働省・東京都・(財)講道館・(財)全日本柔道連盟
(財)東京都柔道連盟・産経新聞社

神奈川県が2年連続3回目の優勝

平成23年10月10日(体育の日)に全国47都道府県から予選を勝ち抜いた強豪48チーム(東京A・B2チーム)が集結し、昨年度優勝の神奈川県チームを先頭に、講道館大道場に堂々と入場した。

第20回文部科学大臣杯争奪 日整全国少年柔道大会が、大勢のご来賓並びに全国の役員・父兄等が参加して、満員の大道場で盛大に開催された。結果は、神奈川県チームが②-1の接戦で茨城県チームを制し2年連続3回目の優勝を飾った。

公益社団法人移行後初めての大会が、岡本和久大会委員長の開会宣言により開会された。席上で萩原 正 大会会長は挨拶に入る前に、去る3月11日の東日本大震災で犠牲に遭われた方々・被災された方々にお悔やみと哀悼の意、並びにお見舞いの言葉が述べられた後に、「本大会は日本古来の柔道を通じ、心身の健全な育成に努めると共に日頃の練習の成果を十分に発揮して正々堂々と悔いのない試合を期待しています」と挨拶をした。

続いて来賓として出席された自民党の谷垣禎一総裁、産経新聞社の平田篤州総合企画室長に祝辞と激励の言葉を頂き、佐藤 正 審判長による試合上の注意の後、前年度優勝 神奈川県チームの 織茂友多郎選手による力強い選手宣誓が行われた。

尚、今回は特例として東日本大震災により出場も危ぶまれていた岩手県・宮城県・福島県の選手に、元気を出して頑張るように激励の意味を込めて、萩原会長より記念品が贈られた。

試合は1回戦より好試合が多く、日頃の練習の成果が現れ、小学生とは思えない高度な試合も数多く見られた。

決勝戦は昨年優勝の 神奈川県 対 茨城県の対戦となり、大いに盛り上がった。昨年は2回戦で対戦して2-1で惜敗した茨城県が雪辱に燃えて決勝に進んで来た。

中堅戦まで1対1、副将戦は神奈川県の織茂選手 対 茨城県の長島選手のエース同士の対戦は前半、長島選手が積極的に攻め優位に進めるも、一瞬の隙を寝技に転じて押さえ込んだ織茂選手の活躍は素晴らしいものだった。

大将戦は、小兵の関根選手と大型の飛田選手の対戦となるも、試合巧者の関根選手は引分けとして②-1で神奈川県が連続優勝を飾った。

(総務部)